



「伝える」と「伝わる」

今日は黄砂がひどい。近くの山々でさえもかすんで見えます。外を見ているだけで、鼻や眼がおかしくなってきました。私は黄砂が苦手です、こんな日は頭が痛くなったり、鼻の奥が変な感じになったり…。ただでさえ体調が戻っていないので、勘弁してもらいたい。

さて、「言葉で伝える」というのは、改めて難しいことだと思う。私たち教職員は、言葉を使って様々な学習活動を行い、生徒を指導・支援していく。教職員だけではなく、どの世界でも言葉を使って意志や考えを伝える。当たり前のこと。

ありがちなのは、伝えた（教えた）つもりが、伝わっていないことの多いこと。よく聞く愚痴が「ちゃんと伝えた（教えた）のに…」というもの。話す方は、話した（つもり）。聞く方も、ちゃんと聞いた（はず）。だけど、真意が伝わっていないことは、往々にしてある。テスト採点をしていると、いかに伝わっていないかが明らかになり、がっかりすることも。

スポーツの場でよく聞く言葉、「何回も言ったのに、なんで同じことをするんだ」指導者は前に伝えたつもり。（おそらく）選手は、その時は「はい」と条件反射的に返事。だけど、その繰り返しが続くというもの。私も20代の頃は、間違いなくそういう指導を行っていた。だけど、20年以上前の指導者研修会で、「言葉だけで選手はできるようにならない。『言ったのに…』ではなく、練習でできるようにさせるのが指導者の務め」と、学んだ。また、「〇〇と言った」「〇〇とは言っていない」の争いは、古今東西聞く話だ。とにかく、真意を言葉で伝えるというのは難しい。

かつて西教事の所長をされていた白江先生から、こんな話を聞いたことがある。
「伝える」と「伝わる」の違いは何か。
一方的に伝えても、それは相手には伝わっていない。
いかに「伝わる」ように「伝える」か。

口に出した言葉だけだと、忘れられてしまうことが多い。かといって文書にして伝えても、確実に読まれ理解されているか疑問。といつつも、私たちは言葉を手段として、伝えていくしかない。話すテンポや間、表情といった話術、文書なら読みたくなるレイアウトの工夫等々、伝えることが私たちの仕事ですから、その術を磨いていきたいものです。